大会名称:第3回FIBA U-17女子パスケットボール世界選手権大会

開催場所: City Arena Pilsen(チェコ・プルゼニ)

試合区分: No. 222 女子 予選ラウンド・グループC コミッショナー: Serge DE COSTER(BEL)

期 日: 2014(H26)年7月1日 (火) 主審: Maripier MALO(CAN)

開始時間: 15:45 副審: Gentian CICI(ALB), Juan Jose FERNANDEZ(ARG)

終了時間: 17:30

日本

(2位/通算2勝1敗)

0 **49** 10 -1st- 10 11 -2nd- 14 17 -3rd- 7 11 -4th- 16 -OT1--OT2--OT3-

• 47

スロバキア

(3位/通算1勝2敗)

第3回FIBA U-17女子バスケットボール世界選手権大会は第4日目。立ち上がり、互いにシュートが入らず、7分経過して5-5とロースコアな展開となる。日本は#6西岡、#11中田のインサイド陣が活躍を見せ、ポストプレイから得点を挙げる。一方のスロバキアは、高さのあるインサイドプレイヤーに日本のディフェンスが寄ると、#4KOVACIKOVAらに3Pシュートを許し、前半を21-24と3点ビハインドで終了する。後半に入っても一進一退の攻防が続くが、日本は主導権を渡さず、試合を進めていく。最終ピリオドに入り、スロバキアの猛追から、残り1分半には45-45の同点とされる。しかし日本は#10脇、#8遠藤がファウルをもらい、落ち着いてフリースローを2本沈めてリードを守り抜き、タイムアップ。49-47の2点差で逃げ切り、勝利を飾った。

第1ピリオド、日本は#4加藤、#5水野、#6西岡、#8遠藤、#11中田でスタートする。立ち上がり、両チームとも固さからか思うようにシュートが決まらず、7分経過して5-5の同点とロースコアな展開になる。そこから日本は、#11中田のドライブインらで得点を重ねる。しかしスロバキアも、残り1分を切ってから#4KOVACIKOVAの3Pシュートで追い上げ、10-10の同点で終了する。

第2ピリオド、日本はスタートの5人で試合に入ると、#6西岡のバスケットカウントで流れを掴む。しかしその#6西岡がファウルトラブルとなり、代わりに#10脇が投入される。すると日本は、速攻からの#13赤木のシュートや、ドライブの合わせから#10脇がゴール下シュートを沈め、開始4分5秒で19-12と一気に点差を広げる。たまらずスロバキアはタイムアウトを要求すると、#4KOVACIKOVA、#6SEDLAKOVAの3Pシュート、#5REMENAROVA、#11STRIESOVAのジャンプシュートと立て続けに得点される。21-24、日本は一気に逆転され、3点ビハインドで前半終了。

第3ピリオド、日本はスタートの5人で後半に入ると、早々に#4加藤の1on1からの得点で先制する。すると続けて#6西岡のセカンドショットが決まり、25-24と逆転に成功する。その後は一進一退の攻防が続くが、日本は#4加藤のドライブインやゴール下、#11中田の速攻からのシュートが決まり、リズムを掴む。すると途中交代の#14赤穂ジャンプシュートも決まり、一時8点差にまでリードを広げる。対するスロバキアは、果敢に攻めるも単発なシュートが続き、38-31と日本が再びリードを奪って最終ピリオドへ。

第4ピリオド、日本は#4加藤、#10脇、#11中田、#13赤木、#14赤穂でスタートする。序盤、思うようにシュートが決まらない日本に対し、スロバキアは#5REMENAROVA、#13MISTINOVAが連続3Pシュートで追い上げ、一気に1点差に詰め寄られる。だが開始3分、日本は#13赤木が技ありの1on1で得点すると、#11中田のフリースローも決まり、主導権を渡さない。その後もスロバキアの反撃が止まらず、#5REMENAROVA、#11STRIESOVAに連続3Pシュートを決められ、残り1分31秒、45-45の同点に追いつかれる。しかし日本は、#10脇、#8遠藤がファウルをもらい、落ち着いてフリースローを2本沈めてリードを守り抜き、49-47で勝利した。

この結果により、日本は予選ラウンドグループCを2勝1敗の2位で決勝ラウンドに進みます。 次戦、7月2日(水) 15:45(現地時間)より、決勝ラウンド初戦をグループD3位の中国とベスト8進出をかけて対戦する。

担当:公益財団法人日本バスケットボール協会